

令和2年度学校保健統計調査の結果確報（高知県分）について【概要】

1 発育状態

男女とも近年横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

○身長

- ・男子は5～17歳までの全年齢で全国平均を下回っており、最も低い11歳では1.6cm低くなっている。
- ・女子は5～17歳までの全年齢で全国平均を下回っており、最も低い9歳では1.7cm低くなっている。

○体重

- ・男子は14歳、16歳を除く年齢で全国平均を下回っており、最も軽い13歳では1.8kg軽くなっている。
- ・女子は11歳、12歳、16歳、17歳を除く年齢で全国平均を下回っており、最も軽い7歳では0.8kg軽くなっている。

2 肥満傾向児の出現率

年齢層によりばらつきはあるが、おおむね増加傾向にあり、全国は増加傾向となっている。

男子は6歳、女子は7歳で3年連続増加傾向となっている。

- ・男子は6歳、8歳、10歳、12歳、14歳、15歳で全国平均を上回っており、最も高い8歳では2.88ポイント高くなっている。
- ・女子は6歳、7歳、15歳を除く年齢で全国平均を上回っており、最も高い17歳では3.68ポイント高くなっている。

3 健康状態

★裸眼視力1.0未満の者は、おおむね増加の傾向にあり、全国も同様の傾向。

令和2年度の割合は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校全てで全国平均を下回っている。

★虫歯（う歯）の者は、おおむね減少傾向にあり、全国も同様の傾向。

令和2年度の割合は、中学校のみ全国平均を下回っている。

○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園・小学校

「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、次いで幼稚園では「歯列・咬合」、小学校では「裸眼視力1.0未満」の順となっている。

- ・中学校・高等学校

「裸眼視力1.0未満」の者の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、小学校で前年度を上回っているが、中学校、高等学校では下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、高等学校で前年度を上回っているが、幼稚園、小学校、中学校では下回っている。

○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、全ての区分で全国平均を下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園、小学校、高等学校で全国平均を上回っているが、中学校では下回っている。

4 新型コロナウイルス感染症による影響

- ・令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間が年度末まで延長された。このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することはできない。

■県教育委員会のコメント

肥満傾向児の出現率や「むし歯（う歯）」等の児童生徒の健康課題には、社会環境の変化等様々な要因が関係しており、改善のためには望ましい生活習慣（適度な運動やバランスのとれた食事、情報機器の利用の仕方等）の定着が重要であることから、知事部局や関係機関と連携し、基本的な生活習慣に関する健康教育の充実に引き続き取り組んでいく。（担当課：保健体育課）